

常磐大学

教員の養成の目標

「実学を重んじ、真摯な態度を身につけた人間を育てる。」との建学の精神に基づき、幅広い視野と豊かな人間性を備えた教員養成に取り組み、現代社会のさまざまな問題と要請に対応でき、地域社会及び国際社会に貢献できる、コミュニケーション能力に優れた教員を育成します。

教員の養成の目標を達成するための計画

上記の「教員の養成の目標」を達成するために、別表のような年次毎の到達目標を設定し、教育していくことを計画している。

(※提示別表は、教育学科初等教育コース、中等教育コースに関する到達目標)

《別表》

●小学校教諭一種免許状

		到達目標
1年	春	教育の理念や理想についての基礎理論を「教育学概論」で理解するとともに、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を法規に基づいて「教職入門」で理解することにより、学校教育およびそれに従事する教員に課せられた社会的使命を自覚する。また、小学校教員に求められる基礎的な知識を、省令で定める科目「日本国憲法」「身体運動の原理」「情報の処理Ⅰ」や教科に関する科目である「理科」「書写・書道」等で習得する。
	秋	子どもの多様化や高齢化の進む我が国における社会的課題のひとつである介護について「介護等の体験」により、介護において求められる普遍的価値や基礎的知識・技術の習得を図り豊かな人間性を醸成する。また、引き続き小学校教員に求められる基礎的な知識を「健康スポーツA・B」「音楽実技Ⅰ」等で習得する。1年次春・秋に位置づけられているこれらの授業を履修することで、次年度以降の専門課程の授業に対する姿勢や態度を身につける機会としている。
2年	春	省令で定められた科目「英語Ⅴ」、教育課程及び指導法に関する科目として「カリキュラム論」「初等理科教育法」「道徳教育の理論と実践」「教育方法学Ⅰ」「生徒指導論」「進路指導論」「教育相談」、教科に関する科目として「国語」「社会」、教職又は教科に関する科目として「学級経営論」等を学び、基礎的な理論と具体的な指導法や実践の両輪の構築を目指す。また、特別支援学校・福祉施設等において「介護等の体験」を行う。
	秋	小学校教育における教育方法の原理と各理論の専門的知識を「算数科教育法」「初等音楽科教育法」「初等図画工作教育法」「初等体育科教育法」などの指導法で学ぶ。また、教科に関する科目では「算数」を学ぶ。「小学校教育実習」の授業が2年次秋から開始されるが、そこで「算数科」の模擬授業を学生自身が実際に行うことにより、「算数科教育法」と「算数」で学んだ理論が、実践と結びつくカリキュラム構成をしている。各指導法についても同様であり、各教科の指導法の科目で学んだことを自身が教員となって行う模擬授業を通して、体験的、実践的に学び取る。
3年	春	「小学校教育実習(事前事後指導を含む)」において、教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学び、教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自覚を高める。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身に付ける。また、学校教育に関する法令、学校における教育活動の実際、児童生徒理解の方法等について「教職設計演習Ⅰ」で学び、それをもとに課題に対するグループ討議やワークショップ等を通して、教師の仕事について理解するとともに、教師となる心構えや意識の向上を図る。加えて、小学校教育内容に関する発展的な内容を「初等国語科教育法」「音楽理論」「図画工作」「家庭」「体育」等を通じて理解する。「小学校教育実習(事前事後指導を含む)」において、実習校で観察実習・授業実習等を含む教育実習を2週間行う。大学に戻り、再度「小学校教育実習」の授業で事後指導となる振り返りを行い、さらに次回の教育実習への学修を積み上げる。
	秋	「小学校教育実習(事前事後指導を含む)」において実際に経験してきた教育実習での学びを大学の「小学校教育実習」で振り返り、各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認し、実践的な指導力・授業力を高め、教職に対する展望がもてるようにする。教職に関する科目である「学校と教育の歴史」を学ぶことで、より深く学校教育について理解する。ゼミナールごとに学生が研究を進めたい内容を絞り、専門的な学問研究を深める。
4年	春	3年秋に引き続き、ゼミナールにおいて、それぞれの学生の課題に従い、教育に関する研究を進め、深くものを見つめる目を養うとともに、先行研究に学ぶ習慣を身につけ、理論と実践、自己の体験と学問的な体系とを結びつけて思考する習慣を身につける。「小学校教育実習(事前事後指導を含む)」において、二回目の教育実習2週間を行い、3年次の実習の反省を元に一年間学んできた事を活かして教壇実習を中心に実習を行う。
	秋	「教職実践演習」を通して、これまでの講義・演習・実習で得た知識と技術を総合し、教員として必要な実践的指導力・授業力を培う。「教職実践演習」で、自分の行った模擬授業を映像に残し、文字に起こした上で、分析することにより、板書・発問・教師の言葉かけ・振る舞い・子どもの対応・机間指導など振り返り、教育実習の振り返りを活かした学修を行っている。さらに、小学校で行われている「公開授業研究会」に参加し、実際の授業を参観することで多くの学びを得ている。「学級活動」「道徳の時間」の模擬授業も行い、心豊かな子どもたちを育むための実践的なアプローチを行う。今後の教職キャリアにおける自らの課題を明確にし、理想とする教員像を確立するとともに、その時点での自分なりのライフプランを確立する。

●中学校教諭一種免許状(社会科)

		到達目標
1年	春	教育の理念や理想についての基礎理論を「教育学概論」で理解するとともに、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を法規に基づいて「教職入門」で理解することにより、学校教育およびそれに従事する教員に課せられた社会的使命を自覚する。また、中学社会科教員に求められる基礎的な知識を、省令で定める科目「日本国憲法」「身体運動の原理」「情報の処理Ⅰ」や教科に関する科目である「人文地理学Ⅰ」「自然地理学Ⅰ」「日本史Ⅰ」「アジア史Ⅰ」等で習得する。加えて、情報教育機器の基本的な知識や操作法を習得する。
	秋	高齢化の進む我が国における社会的課題のひとつである介護について「介護等の体験」により、介護において求められる普遍的価値や基礎的知識・技術の習得を図り豊かな人間性を醸成する。また、引き続き中学社会科教員に求められる基礎的な知識を「地域研究入門」「人文地理学Ⅱ」「自然地理学Ⅱ」「日本史Ⅱ」「アメリカ史」で習得する他、「法律学」等を通じて中学社会科で育むべき公民的資質について理解する。更に、生徒の心理的発達の状況に関する基礎的な知識を「教育心理学」理解する。
2年	春	社会科教育の内容を実質的に形づくっている学習指導要領、およびその基準に基づいた社会科教育課程の編成の理念、歴史的経緯、編成に至るまでの手続き・方法、指導案作成や授業づくり等の、中学社会科教育で必要とされる指導スキルの基礎的な事項を「社会科・地歴科教育Ⅰ」および「社会科・公民科教育法Ⅰ」で習得する。加えて、教育相談、道徳教育、教育社会学、教育方法学の内容に関する基礎理論・知識、および指導法を習得する。また、中学社会科の地理的な教育内容を「地誌」および各「地域研究」の科目から把握する。また、特別支援学校・福祉施設等において「介護等の体験」を行う。
	秋	中等教育における教育方法の原理と各理論の専門的知識を「カリキュラム論」を通じて理解する。加えて、生徒指導・進路指導に関する基礎理論・知識、および指導法を習得する。その他、中学校社会で扱う教育内容について教材分析を行い、生徒の反応を想定した指導案の作成、単元開発の方法を「社会科・地歴科教育法Ⅱ」および「社会科・公民科教育法Ⅱ」で習得する。また、これまでに培った中学社会の教育内容のレベルアップを図るため、1年次で履修した科目の発展科目である「自然地理学Ⅱ」等を通じて社会科の教科内容について深く理解する。
3年	春	「中学校教育実習(事前事後指導を含む)」において、教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学び、教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自覚を高める。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身に付ける。また、学校教育に関する法令、学校における教育活動の実際、児童生徒理解の方法等について「教職設計演習Ⅰ」で学び、それをもとに課題に対するグループ討議やワークショップ等を通して、教師の仕事について理解するとともに、教師となる心構えや意識の向上を図る。加えて、社会科の教育内容に関する発展的な内容を「経済学」「地域研究Ⅱ」等を通じて理解する。
	秋	「中学校教育実習(事前事後指導を含む)」において、3週間に渡り、実習校で観察実習・授業実習等を含む教育実習を行う。また、教育実習の終了後は各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認し、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望がもてるようにする。また、教職や教員採用試験に向けてより実践的な個人面接や集団討論の方法、小論文の書き方のポイント等について「教職設計演習Ⅱ」で学び、それをもとに模擬面接・模擬集団討論、小論文の演習等を通して、教職や教員採用試験に向けての意識の向上を図る。加えて、社会科の教育内容に関する発展的な内容を「地域研究Ⅱ」等を通じて理解する。
4年	春	「教職設計演習Ⅲ」等で、全国、茨城県、水戸市における中学校教育ならびに社会科教育に関する現状、動向、課題、および求められる教員像を理解するとともに、既習事項の復習を行うことによって、教育実習における課題を明確にする。
	秋	「教職実践演習」を通して、これまでの講義・演習・実習で得た知識と技術を総合し、教員として必要な知識・スキルを確実に習得する。また、今後の教職キャリアにおける自らの課題を明確にし、理想とする教員像を確立するとともに、その時点での自分なりのライフプランを確立する。

●高等学校一種免許状(地理歴史)

		到達目標
1年	春	教育の理念や理想についての基礎理論を「教育学概論」で理解するとともに、教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を法規に基づいて「教職入門」で理解することにより、学校教育およびそれに従事する教員に課せられた社会的使命を自覚する。また、高校地歴科教員に求められる基礎的な知識を「人文地理学Ⅰ」「自然地理学Ⅰ」「日本史Ⅰ」「アジア史Ⅰ」等で習得する。加えて、情報教育機器の基本的な知識や操作法を習得する。
	秋	引き続き校地歴科教員に求められる基礎的な知識を「地域研究入門」「人文地理学Ⅱ」「自然地理学Ⅱ」「日本史Ⅱ」「アメリカ史」で習得する他、「法律学」等を通じて中学社会科で育むべき公民的資質について理解する。更に、生徒の心理的発達状況に関する基礎的な知識を「教育心理学」理解する。
2年	春	社会科教育の内容を実質的に形づくっている学習指導要領、およびその基準に基づいた社会科教育課程の編成の理念、歴史的経緯、編成に至るまでの手続き・方法、指導案作成や授業づくり等の、中学社会科教育で必要とされる指導スキルの基礎的な事項を「社会科・地歴科教育Ⅰ」および「社会科・公民科教育法Ⅰ」で習得する。加えて、教育相談、道徳教育、教育社会学、教育方法学の内容に関する基礎理論・知識、および指導法を習得する。また、校地歴科の地理的な教育内容を「地誌」および各「地域研究」の科目から把握する。
	秋	中等教育における教育方法の原理と各理論の専門的知識を「カリキュラム論」を通じて理解する。加えて、生徒指導・進路指導に関する基礎理論・知識、および指導法を習得する。その他、中学校社会で扱う教育内容について教材分析を行い、生徒の反応を想定した指導案の作成、単元開発の方法を「社会科・地歴科教育法Ⅱ」および「社会科・公民科教育法Ⅱ」で習得する。また、これまでに培った高校地歴の教育内容のレベルアップを図るため、1年次で履修した科目の発展科目である「自然地理学Ⅱ」等を通じて社会科の教科内容について深く理解する。
3年	春	学校教育に関する法令、学校における教育活動の実際、児童生徒理解の方法等について「教職設計演習Ⅰ」で学び、それをもとに課題に対するグループ討議やワークショップ等を通して、教師の仕事について理解するとともに、教師となる心構えや意識の向上を図る。加えて、社会科の教育内容に関する発展的な内容を「経済学」「地域研究Ⅱ」等を通じて理解する。
	秋	「高等学校教育実習(事前事後指導を含む)」において、教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学び、教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自覚を高める。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身に付ける。また、教職や教員採用試験に向けてより実践的な個人面接や集団討論の方法、小論文の書き方のポイント等について「教職設計演習Ⅱ」で学び、それをもとに模擬面接・模擬集団討論、小論文の演習等を通して、教職や教員採用試験に向けての意識の向上を図る。
4年	春	「高等学校教育実習(事前事後指導を含む)」において、2週間に渡り、実習校で観察実習・授業実習等を含む教育実習を行う。また、教育実習の終了後は各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認し、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望がもてるようにする。また「教職設計演習Ⅲ」等で、全国、茨城県、水戸市における高等学校教育ならびに地理歴史教育に関する現状、動向、課題、および求められる教員像を理解するとともに、既習事項の復習を行うことによって、教育実習における課題を明確にする。また、教育実習を通して理論と実践とを統合した実践力の基礎を培う。
	秋	「教職実践演習」を通して、これまでの講義・演習・実習で得た知識と技術を総合し、教員として必要な知識・スキルを確実に習得する。また、今後の教職キャリアにおける自らの課題を明確にし、理想とする教員像を確立するとともに、その時点での自分なりのライフプランを確立する。

常磐短期大学

教員の養成の目標

「実学を重んじ、真摯な態度を身につけた人間を育てる」との建学の精神に基づき、自ら考え行動して(自立)、新たなものを創り出すために(創造)、真摯に取り組む(真摯)教員の養成に取り組み、「学び・思考し・表現(行動)する保育者」を信念とした、豊かな人間性および高度な専門的知識と技能をもった、社会に貢献できる教員を育成します。

教員の養成の目標を達成するための計画

上記の「教員の養成の目標」を達成するために、別表のような年次ごとの到達目標を設定し、教育していくことを計画している。

《別表》

●幼稚園教諭二種免許状

		到達目標
1年	春	教育の理念や幼児の心身の発達など教育の基礎理念を「教育原理」「発達心理学Ⅰ」「障害児保育」で理解する。また、幼稚園教員に求められる基礎的な知識を、省令で定められた「日本国憲法」「身体活動論」「英会話」「コンピュータ演習Ⅰ」や教科に関する科目である「国語」「児童文学」「器楽Ⅰ」「声楽Ⅰ」「平面美術構成」「基礎体育Ⅰ」により修得する。キャンパス内にある「常磐大学幼稚園における観察実習」を通して幼児理解を学び、幼稚園教員としての専門性の基礎を身に付ける。
1年	秋	省令で定められた「英会話Ⅱ」「コンピュータ演習Ⅱ」、教科に関する科目として「音楽の基礎」「器楽Ⅱ」「声楽Ⅱ」「立体美術構成」、教育課程及び指導法に関する科目として「教育課程論」「幼児と健康」「ことばの教材」「幼児と音楽」「生活と遊び」を学び、基礎的な理論と具体的な保育内容の指導法を学ぶ。「常磐大学幼稚園における観察参加実習」を通して、幼児理解を深めるとともに幼稚園教員としての専門性を身につける。事後指導では、実習での経験をもとに、次なる目標、課題を見出す。
2年	春	教育の基礎理論として「教育史」、保育内容の指導法として「保育内容総論」「幼児音楽教育法」「幼児と運動」「幼児とことば」を学び、「保育指導法」においては、指導計画を具体的に作成し、実践的な学びを具体的に積み上げていく。また、教育相談や幼児理解を「臨床心理学」で学び取る。また、「教育実習」の事前指導では、不安なく本番に臨めるよう心構えや指導案・日誌の書き方を学ぶ。1年次からさらに踏み込んで、実践力、応用力を養っていくとともに、幼児を取り巻く社会環境や、幼児の発達の特性等、幼児教育・保育に不可欠な知識を修得する。
2年	秋	教職の意義及び教員の職務内容を「保育者論」で理解するとともに、教育の基礎理論を「教育心理学」「発達心理学Ⅱ」を通して学び取る。また、省令で定められた科目及び教科に関する科目「総合体育」を修得する。保育内容指導法を「幼児と環境」「造形表現」「手作り玩具」、教育の方法及び技術を「教育方法論」で学び、さらに教育相談の理論と基礎的知識を「カウンセリング」で修得し、教員としての実践力を身に付ける。また、「保育・教職実践演習(幼稚園)」において、学生各自が教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識・技能を身に付ける。さらに、学外の「幼稚園教育実習」を通して、幼児と触れ合い、幼児理解、具体的な援助法、指導法などを修得し、理想とする教師像を確立するとともに、実際に幼稚園教員として勤務できる実践力を確実に高める。